

2009年（平成21年）

ハタハタ情報 No.1

平成21年10月6日発行

北海道立中央水産試験場 資源管理部

Tel: 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

- インターネットからもご覧いただけます -

マリネット北海道: <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp>

中央水試調査船おやしお丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2009年9月30日～10月1日

【調査海域】 雄冬岬沖の水深230～260mの海域にて、5調査点で小型トロールを曳網しハタハタの採集試験を行いました。

1マイル曳網あたり29.5尾の採集。321漁区の水深230～250mで多く採集される。
魚体サイズは体長140～160mmが主体で、1歳魚（2008年級）が全体の約88%を占める。
成熟の進行はやや遅い模様。

1. ハタハタの分布状況（図1）

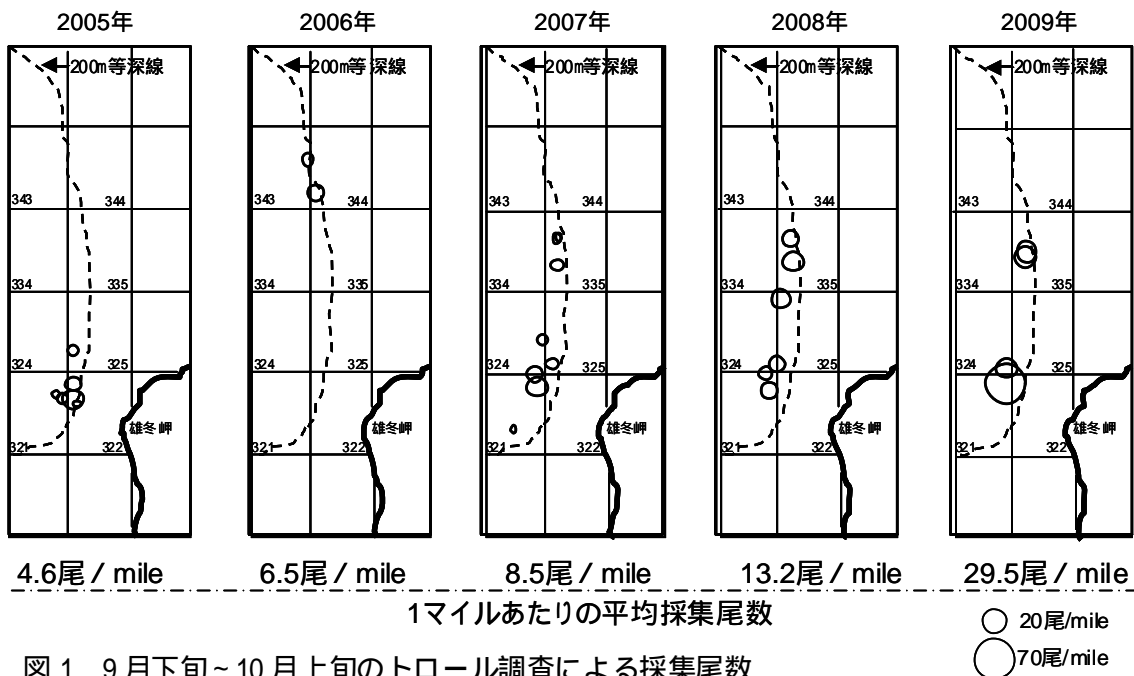


図1 9月下旬～10月上旬のトロール調査による採集尾数

今回の5調査点におけるハタハタの平均採集尾数は1マイルあたり29.5尾で、これまで5年間に実施した同時期の調査の中では、最も多く採集されました。とくに、規制海域となっている321漁区の水深230～240m付近での採集が多く、その他すべての調査点において、ハタハタが採集されました。

2. ハタハタの魚体サイズ (図2)

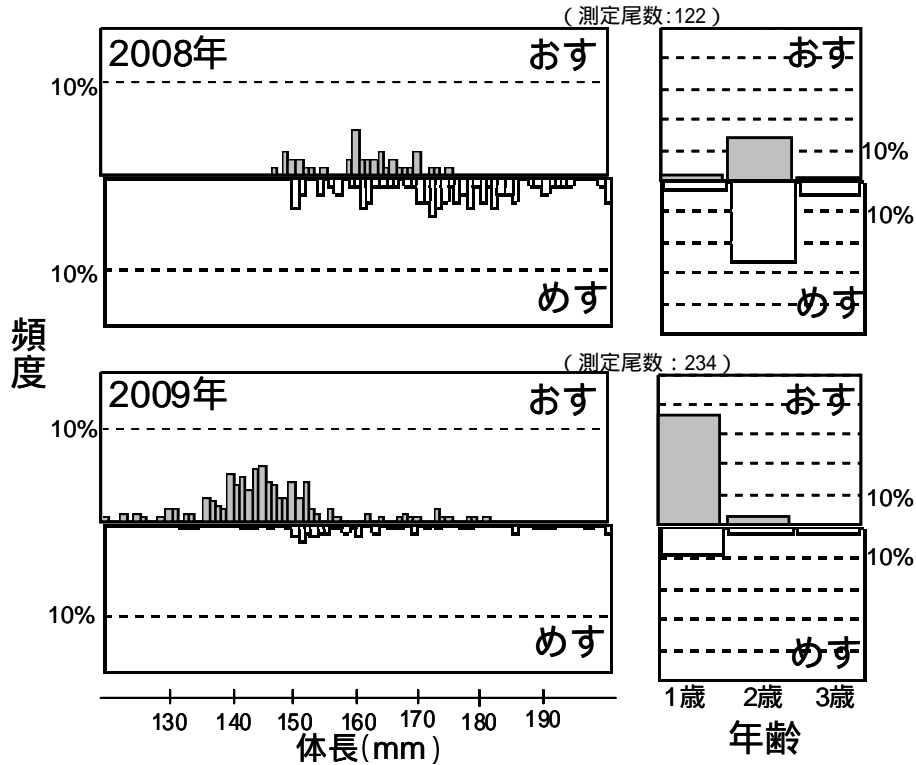


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成
 上段図：昨年（2008年）調査 下段図：今回の調査

今回の調査で採集されたハタハタの体長は、昨年（2008年）と比べると小型であり、雄で140～150mm（昨年は160mm台）、雌で150～160mm（昨年は170mm以上）が主体となっていました。

採集されたハタハタの年齢は、1歳魚（2008年級）が約88%でした。2歳魚である2007年級は昨年に続き、わずかな採集数でした。また、昨年は資源豊度の高かった2006年級が2歳魚として採集物の90%を占め、続く漁期中にも漁獲主体となりましたが、今回の調査で、この2006年級の3歳魚としての採集はわずかでした。これらのことから、今漁期の漁獲物は1歳魚主体となる模様です。

3. 成熟状態 (図3)

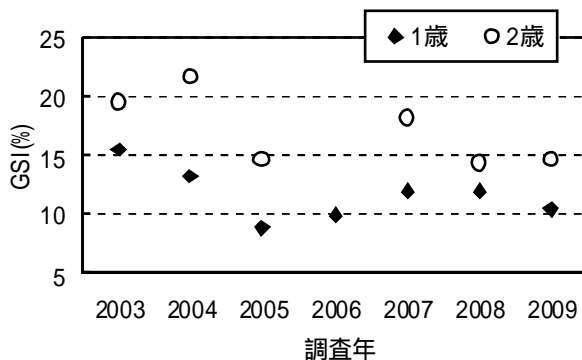


図3 毎年9月下旬のハタハタ雌のGSI
 (GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

ハタハタは成熟状態（生殖巣の発達状態）が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣重量の割合（GSI）は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40前後の値となります。図3から、今回の調査で採集されたハタハタ雌のGSIは1歳魚で10.4%、2

歳魚で 14.5%と、近年では比較的小さい値であることから、いまのところ、成熟はやや遅めに進行していると考えられます。次回（10月下旬）のトロール調査結果をみて、沿岸への来遊時期の見通しを検討したいと思います。

4. 水温（図4）

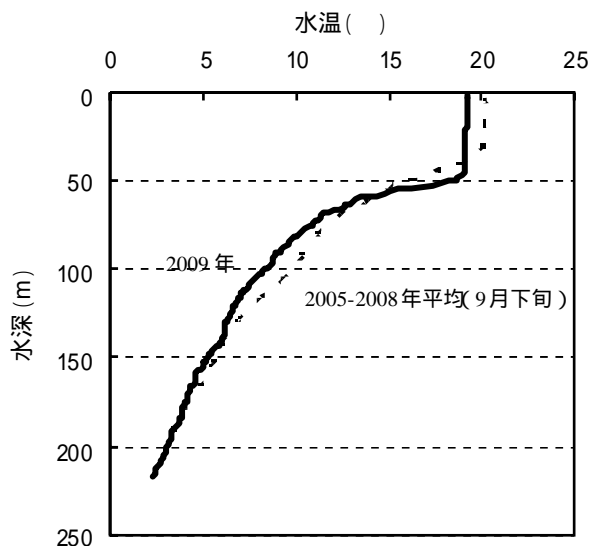


図4 雄冬沖の水温分布

今回の調査中に行った CTD による雄冬沖（321 漁区北側）の表層から底層にかけての水温測定結果を、過去 4 年間の平均値と併せて示しました。現在ハタハタの主要分布域となっている 200m 以深の水温は例年同様 2.5 前後で推移しております。なお、図から分かるように、水深 70～130m 付近と海面から 40m 付近では、例年よりやや低めの水温分布となっていました。

5. 今後の調査など

次回のおやしお丸によるトロール調査は、10月下旬を予定しております。調査海域は今回と同様、雄冬沖を中心とするハタハタの分布域となります。付近海域で操業中の漁業者の皆様には何卒ご配慮いただきますよう、よろしく願いいたします。また、漁期中には漁獲物標本の採集調査も実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。